

第5回江別市行政審議会 第2部会 会議録（要点筆記）

日 時：平成25年6月12日（水） 18:30～20:30

場 所：江別市民会館 31号室

出席委員：河西委員、梶野委員、徳永委員、町村委員、草野委員（計5名 欠席：1名）

事務局：鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、千葉課長（政策調整課）、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、長谷川主任（総合計画担当）

■開会

■議事

（1）えべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞ 素案について

○ 河西部会長

資料については本日配布したばかりですので、今の段階でお気づきになった点について簡単なご質問、ご意見等があれば頂戴して、また次回以降の審議会でもご意見をいただければと思います。

特にこの部会に関係するのは、21・22ページのまちづくり政策分野02「産業」のところですね。事務局に補足説明をお願いしたいのですが、この「産業」の政策分野に関して、現行の第5次総合計画と異なっている部分について、主な変更点だけで結構ですので、ご説明をお願いします。

○ 事務局

現行の第5次総合計画では、産業の振興に関する政策の中に4つの大きな柱がありました。1つは「都市型農業の推進」で、これについては変わりません。その他、「工業の振興と産学官連携の推進」、「商業の振興」、「就業環境の整備」が第5次総合計画の柱でした。これらについては1つに統合して「商工業の振興」としています。今回の新しい総合計画では、新たに「観光による産業の振興」を柱として追加しており、大きな変更点はこの部分になります。

○ 河西部会長

観光というのが一つの大きな柱になっているというのが、今回の総合計画の特徴ということですね。

○ 町村委員

従来型の観光のイメージからすると、江別市には当てはまらない部分もある中で、今回、「観光による産業の振興」と柱立てしていることについて、唐突な印象を受けます。意図していることについては全く異論はなく、理解もできますが、自分が観光協会の役職に就いていて思うのは、江別の場合は観光の部分と、もう一つの要素として「物産」があると思います。札幌市や小樽市などは観光協会と物産協会が分かれているようです。

が、江別の場合は観光と物産が非常に密接につながっていて、０２－０３（２）「江別ブランドの確立」は観光よりむしろ「物産」の方が連携しやすいところだと思います。０２－０３のタイトルを「観光・物産による産業の振興」と変えるのが良いのかどうかまでは判断できませんが、「物産」という言葉をどこかに入れておくと、今後の観光の広がりを担保する上でも良いと思います。これは私自身が最近感じているところですので、意見として述べておきます。

○ 河西部会長

今の状態ですと、「物産」という言葉自体がありませんので、どこかに入れる必要があるかもしれません。答申に向けたご意見として受け止めたいと思います。

○ 徳永委員

０２－０１（２）「農畜産物の高付加価値化」で、「高品質・高付加価値の商品化をめざします」とありますが、商品化してもそれが最終的に消費者の手に届く販売のところまで結びつかないと、ブランド化にも結びつかず、生産者や商品開発に携わった人たちの努力が形になりません。商品化だけで足りるものではなく、そこまで踏み込む必要があるのではないのでしょうか。

○ 河西部会長

ここは「都市型農業の推進」で農業者を対象にした部分ですが、ブランド化の部分に関しては流通・販売のことも関わってくるのではないかというご意見です。

○ 事務局

ご意見のとおり、ブランド化は、製品が消費者の手に届き、信頼を得て消費が続いていくことによって、はじめてブランド化されたと言えるものだと考えています。その流通・販売の部分まちづくり政策に盛り込むかどうかですが、その部分についてはえべつ未来戦略で重点化している部分であり、農業だけではなく全体を通して考えていくべきことと考えています。また、０２－０２（１）「食関連産業の振興」の内容でも、販路拡大などについて盛り込んでいます。

○ 徳永委員

農産物を通じて、江別市の経済全体の底上げを図っていくために、今までの生産は生産、加工は加工、流通は流通と分かれている状態にあるものが、この総合計画を機会に、１つの商品を通じてお互いに連携を図っていくという共通認識を持って進めることができるようになることが、一番大切なことだと思います。総合計画を見たときに、市民や関係者それぞれがそのように認識できるような表現になっていると良いと思います。

○ 河西部会長

えべつ未来戦略で、そのことは重点的に表現していますが、まちづくり政策の方でもそういったことが読み取れるような表現ができないかというご意見だと思います。

本日のところは他にご意見がないようですので、また素案をじっくり読んでいただき、ご意見があれば次回以降の審議会で議論したいと思います。

(2) えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>別冊 えべつ未来戦略について

○ 河西部会長

今日はこの部会の所管している戦略2を中心に議論していきたいと思います。

えべつ未来市民会議から引き続き市民委員としてご参加いただいている草野委員に伺いたいのですが、えべつ未来市民会議で議論した内容や方向性とこのえべつ未来戦略の素案を比べて、大きな方向性のずれなどはありませんか。

○ 草野委員

えべつ未来市民会議では色々な意見が出ましたが、それらはほとんどと言って良いくらい網羅されていると思います。

○ 河西部会長

これまでこの審議会の中で議論してきた方向性と、この素案の内容を比べて方向性にずれはないでしょうか。また、こういった戦略の内容から考えられる具体的な取組や、戦略を進めていく上での留意点などについてご意見があればお願いします。

○ 徳永委員

7ページの「戦略の方向性」の欄に「人口当たりの産業規模が小さく」とありますが、どのような数字から産業規模が小さいと判断したのでしょうか。産業の生産額を就業人口で割っているのか、あるいは総人口で割っているのか、計算方法を教えてください。

○ 事務局

「道内他都市との社会指標の比較」という資料を作成しています。その中で、経済基盤の分野についてもまとめてあり、人口千人あたりの商業年間商品販売額、製造品出荷額等、事業所数、観光入込客数などについて道内他都市と比較しています。比較対象都市は、札幌広域圏の札幌市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、小樽市と、類似団体の小樽市、北見市、そして隣接自治体の岩見沢市の8市で、江別市を入れて全部で9市での比較です。その結果、商業年間商品販売額が9市中9位、製造品出荷額等が7位、従業者数が9位、観光入込客数も9位などとなっており、経済基盤の分野では9市の中で下位に属していることから、「道内の同規模の他都市と比べて人口当たりの産業規模が小さく」という表現をしています。

○ 徳永委員

この現状の記載の部分が、後段の戦略で取り組んでいく内容にどのようにリンクしてくるのか、単純に他市と比べられない要素がある中で、これを読んだ市民が理解するのは難しいかもしれません。協働でまちづくりをするとすると、このような現状を市民が理解して、それによってもっと自分たちが江別の資源や環境を積極的に使っていくという気持ちになってくれると良いと思います。その結果として、江別の産業や市の財政が活性化し、それが自分たちに返ってくるというところまで理解してもらえると良いので

すが、ただ読み流されてしまうとせっかくこのような戦略を提案しても、それを実現していくのが難しくなってしまうのではないかと思います。

○ 河西部会長

行政サイドの意図としては、現状、人口あたりの産業規模が小さいので、もっと活性化できる、伸び代があるという前提でこのような表現にしているのだと思います。

○ 町村委員

経済基盤分野で7位とか9位などとなっているのを、表にして記載してはどうですか。

○ 徳永委員

現実的に札幌は別にしても、北広島や恵庭や千歳より下位だというのは正直なところショックです。

○ 草野委員

この現状をはっきりと数値やグラフなどで示して、市民に知ってもらった方が良いのではないのでしょうか。

○ 河西部会長

江別がこのような現状だということは事実で、だからこそ江別は江別なりの産業活性化のやり方があるのではないかと、というのが今回の戦略の前提になる基本的な考え方だと思います。ビジュアルでグラフなどを入れるとわかりやすく良いかもしれません。あとは少し文章を工夫して、まだ伸び代があるということを表現しても良いかもしれません。

○ 町村委員

まちの性質が千歳や恵庭と江別は違いますので、単純に人口あたりで比較するだけで結論を導き出すべきではない部分もあります。現状はこのような状態だけれども、まちの成り立ちがそもそも違うので、それはそれと認めた上でまだ伸び代があるという表現の方が正確だと思います。

○ 徳永委員

現実的には、そのような簡単には変えられない環境の中でやっていかなければならないわけです。

○ 町村委員

この部分はこのままでもすんなり読めてしまいましたが、人口あたりの産業規模が小さいという現状分析の記載の部分と産業活性化に取り組んでいくという記載の間に、もう少し江別の性質を踏まえた補足説明が必要なのかもしれません。

○ 河西部会長

このまま文章通り読むと、江別の産業は大変深刻な状況なのではないかと受け取られてしまいますので、文章表現を工夫していただいた方が良いと思います。

一つ質問です。「ブランド化」という言葉に関して、これまでは戦略プロジェクト2 Bの②の中に入っていました、今回の素案では戦略プロジェクト2 Aの④「大学・研究機関との共同研究の推進」に入っています。これはどのような意図でしょうか。とい

うのは、「ブランド化」というのは必ずしも共同研究の中から産みだされるものだけではなく、江別小麦めんなどは農業者と地元加工業者の方が中心になってブランド化したものだと思います。

○ 事務局

戦略ですので、重点的に取り組んでいくという視点から、江別の特性である大学・研究機関との連携の部分を重視して移しました。それ以外のブランド化の取組をしないわけではなく、まちづくり政策 02-01(2)の中でも「江別産農畜産物のブランド化やイメージアップを進め」としており、今までの事業は継続的に行っていきましますし、それに加えて農商工連携・産学官連携などを活用して戦略として重点的に進めていくということです。

○ 徳永委員

「道内他都市との社会指標の比較」の9ページの人口千人あたりの観光入込客数が、江別市は6.1千人というのはどのように読み取れば良いのでしょうか。

○ 町村委員

年間の観光入込客数を人口で割ったのでしょうか。

○ 徳永委員

人口が少なく観光入込客数が多いと、この数字がとて大きくなるということになります。

○ 町村委員

観光入込客数に関して、人口あたりで比較する意味はあまりないと思います。

○ 事務局

都市規模を表す指標は、面積や人口など色々ありますが、ここでは人口で都市規模を表現しています。観光入込客数の総数としては、平成22年度では約75万人で、人口の約6.1倍が観光客として来ているということです。一番多い千歳市では、人口の約52倍の観光入込客数となっています。

○ 徳永委員

要するに人口に対する割合ということですね。単純に観光入込客数の絶対数で比較した方がわかりやすいと思います。

○ 町村委員

それでも江別市は少ない方だろうとは思いますが。

○ 河西部会長

人口規模と観光入込客数に相関関係があるのであれば意味がありますが、そうではないと思います。商品販売額等であれば、ある程度人口との相関関係があるので適切かと思いますが。これに関しての議論は素案とは直接関係がありませんので、この辺りにしておきたいと思います。

戦略プロジェクト2Aと2Bのタイトルを比較すると、どちらも「連携」と「産業」

という言葉が入っています。経済部の方で、この表現で良いのかという議論は無かったのでしょうか。2 Aの「産業間連携」の産業の中には1次産業・2次産業・3次産業も入っているのではないかと、そして2 Bは「農業と2次産業・3次産業との連携」となっていて、重複しているのではないかと議論になりませんでしたか。

○ 事務局

たしかに重複するという議論はありましたが、市民会議での意見や行政審議会での議論の経過を尊重し、2 Bは農業に焦点を当てた戦略として掲げ、内容についても経済部と調整した結果となっています。

○ 町村委員

戦略プロジェクト2 Aの②「マーケティングの視点に基づいた産業振興」について、全くそのとおりだとは思いますが、これをどう具体的に政策に反映させていくのかという部分について、個人的にとっても興味があります。この部分に、行政としてどのように関わることができるのでしょうか。マーケティングの視点を導入した商品なり、サービスを行政が積極的に支援していくという意味合いなののでしょうか。

○ 事務局

予算要求も含めた具体的な事業化を庁内でも検討し始めた段階で、まだこの場で具体的な取組を示すことができない状態ですが、今現在想定しているものとしては、町村委員のおっしゃるとおり、マーケティングの視点で経済の振興や地場産品の掘り起しをしていくというイメージです。江別産品の知名度向上やそこから交流人口の増加を図っていくような既存の事業もありますので、それを再構築・拡充等できないか検討しています。

○ 河西部会長

もともとこのマーケティングの議論は、えべつ未来市民会議の地域産業部会の中で出てきました。現状でも色々と市の補助金のメニュー等がありますが、企業が実際に商品開発をして、販路を開拓して、販売促進をしていくというプロセスでは使いにくいという意見が出て、それであればもう少し企業のマーケティングに合わせた形の支援策ができないかという話になりました。たとえば、商品開発の前段としての市場調査を支援するとか、今流行の言葉で言うとオープンデータというもので、行政が情報を積極的に公開することで、企業が行政の持っている様々な情報を使いながらきちんとターゲティングできるようにするとか、江別は中小企業が多いので、道内や近郊への販売はなんとかするにしても、海外に売っていきいたいといったときに何か行政で支援ができないかというような意見でした。もう一つは、江別というまち自体がブランドとして価値を持つと、江別市内の企業が製造したというだけでもっと注目を集められるし、評価もされるだろうから、江別という地域の地域ブランドも高めてほしいという意見も出ました。そういったことを簡潔な言葉にまとめたのが「マーケティングの視点に基づいた産業振興」ですので、それを踏まえて今後の具体化を検討していただければと思います。

○ 徳永委員

戦略プロジェクト３Ｃに「雇用の創出」とありますが、江別市内には現実的に働きたくても働く場所がないという人が相当数いるのでしょうか。

○ 事務局

本日、手元に詳細なデータは持ち合わせておりませんが、ここで「雇用創出」と表現しているのは、企業誘致によって働く場を広げていくという側面を意識しています。

○ 徳永委員

企業誘致等によって雇用を創出することで、市内だけではなく、市外からも人を呼び込もうという意図が込められているという理解でよろしいですか。

○ 河西部会長

えべつ未来市民会議の中で出てきたのは、市内に４つの大学があって若い人がたくさんいるのに、江別市内に就職先がないため、大学を卒業したら市外に出て行ってしまうということでした。また、子育て世代が市内へ定住するときに、夫は札幌の会社に勤務して、妻は市内で家の近くで働きながら子育てと両立したいと思ったときに、手頃な職場が無いという意見が出ていました。まず若者向けの雇用の場をきちんと地元につくって、大学生として江別に来た人を手放さないようにしようということと、子育て中の女性たちが仕事と子育てを両立できるような職場を市内につくっていかう意見がありました。ですから、失業率が高いから雇用を創出する必要があるというような話ではなかったと思います。

○ 事務局

この戦略プロジェクトでは「働きたいまち・えべつ」「企業が立地したいまち・えべつ」ということで、河西部会長がおっしゃったとおり、環境を整えて企業に立地してもらい、そこに雇用が産まれることで働きたいという人が出てきて、それが市外の人であれば江別に住んで働いてもらうことにつながる、といったような連鎖をイメージした戦略としています。

○ 梶野委員

私たちはヤングシルバーという言葉をよく使います。定年退職したばかりのまだまだ元気な方々と、どのように上手く商店街が連携できるかを考えています。子育て支援など全てのことに関係しますので、ヤングシルバーが持っている技術や趣味を活用したり、次の世代に伝えていくというようなことが、全てではなくても所々に表現されているともっと良くなると思います。

○ 河西部会長

たとえば、戦略プロジェクト２Ａ③「地域に根差した商店街の魅力づくりへの支援」の内容欄は「学生が地域住民と交流し」となっていますが、学生に限定せずに「多様な市民が交流し、活躍できる」というような表現にした方が梶野委員のイメージに近いか

もしれません。ヤングシルバーの方が商店街で新しいサービスを始めたりといったことでしょうか。

○ 梶野委員

商店街に限らず、戦略全体的にそういった要素が入っていると良いと思います。

○ 河西部会長

計画の骨子たたき台の段階では、戦略の中に高齢者のコミュニティビジネスを支援していくというものもあり、経験や技能があってやる気のある高齢者が小さなビジネスをやるときに応援するというものがありましたが、行政審議会での議論の経過でその要素はなくなってしまいました。では、推進プログラム③の文章はこのままにしておいて、元気な高齢者の方が商店街等で活躍できる場をつくっていくということを、この推進プログラムから想定される取組の提案ということで答申に盛り込んでいくことにしてはどうでしょうか。

○ 事務局

戦略プロジェクト２Ｃの②「潜在労働力の掘り起し」の中で、主な内容欄には直接表現していませんが、元気な高齢者や子育てが終わった方をイメージしています。商店街に限らず、全体的にというご意見でしたので、こちらで整理させていただく方が良いかもしれません。

○ 河西部会長

２Ｃ②の主な内容欄も、文章はこのままでも良いと思いますが、想定される取組として、たとえば子育てを終えた女性がこのような働き方ができるのではないかと、元気な高齢者が活躍できるのではないかと、ということを答申に盛り込んでいくのが良いかもしれません。推進プログラムの文章自体をあまり細かく具体的に書いてしまうと、返って幅が狭くなってしまいますので、ここは戦略として方向性だけを示しておくのが適当と考えます。

この部会の担当である戦略２については、本日はここまでにしておきます。他の戦略についてお気づきの点等がありますでしょうか。

○ 町村委員

「達成度を測る指標」というものがそれぞれに設定されていますが、これはすでに確定したものでしょうか。それとも今後の作業の進捗状況で変わってくる部分でしょうか。

○ 事務局

「達成度を測る指標」については、現時点の事務局案となっており、具体的な事業の検討を今後進めていく中で、より相応しい指標に変えるなど若干の修正を予定しています。

○ 町村委員

実際にアンケート調査などをして指標値を取得するのでしょうか。

○ 事務局

「〇〇な市民割合」・「〇〇な職員割合」といったものはアンケート調査になります。観光入込客数など、具体的な数値を取得するものもあります。戦略ですので、できるだけ数値で測れる定量的な指標で管理していくことが好ましいと考えてはおりますが、定性的なアンケート指標にせざるを得ないものも出てくると考えています。

○ 町村委員

これまでもアンケート調査等は実施してきていると思いますが、その設問は市の職員の方が作成しているのですか。

○ 事務局

現行の総合計画の進行管理にあたって、指標値取得のために市民アンケートを実施しており、アンケートの設問についても市で作成しています。指標の設定やアンケートは非常に難しいところで、行政評価外部評価委員会からも新しい総合計画の策定にあたって指標の見直しをきちんと行うよう、ご指摘をいただいています。

○ 町村委員

戦略４のシティプロモートの指標設定はおそらく難しいのではないかと思います。

○ 河西部会長

「江別市の情報発信力」に関して、それを測る１つの方法としては、「江別市」というキーワードで新聞記事検索をしたら、何件くらいヒットするか、といった方法もあります。民間企業などではそのような手法を使っています。

本日はここまでにしておき、計画素案を持ち帰ってじっくり読んでいただいた上で、次回以降の審議会でも議論していきたいと思います。

確認していただきたいのは、第１点として、それぞれの戦略の方向性について、これまでの議論とずれが無いかどうか。第２点として、戦略を推進していくにあたっての留意点。第３点として戦略から想定される取組、たとえば先ほど梶野委員からご意見のあった元気な高齢者の方々が活躍できる場をつくる、といった具体的な取組についても考えていただきたいと思います。これらの３点に関して、各自ご検討いただいた上で、次回の部会で議論していきたいと思います。

（３）次回の審議会について

次回の第６回行政審議会（部会）の日程調整のため、各委員の都合確認

第１候補 ７月１７日（水） １８：３０～

第２候補 ７月１６日（火） １８：３０～

■閉会